

2012年第3回日本地球化学会評議員会 議事録

日時: 2012年9月10日(月)13:15-19:10

場所: 九州大学 理学部2号館1階 2119号室(化学会議室)

出席者: 吉田会長、山本副会長、板井、植松、折橋、川幡、下田、高橋、原田、谷水、谷本、角皆、日高、益田、南、塚本、横山、豊田の各評議員、佐野、平田、丸岡評議員、清水監事、鈴木勝彦、上野雄一郎、野尻幸宏の各会員(オブザーバー)

欠席者: 岩森、小畑評議員

1. 審議事項

1.1. 第2回評議員会(メール会議)議事録の確認

1.2. 副会長二人制に関わる会則変更

会長から趣旨説明があり、会則改正案を総会に上程すること、総会で承認された後に、評議員会にて役員選出細則を改正することが承認された。

1.3. Goldschmidt Conference (GC)2016年日本開催について

1.3.1 経緯報告

会長から日本開催が決定した経緯、現在までのGS(米国地球化学会)との交渉経過、GCタスクフォース(TF)での議論等が報告された。

1.3.2 会場について

候補地6会場の得失がGC-TFメンバーにより説明された後、出席者(オブザーバー含む)の挙手により3会場を候補から除き、横浜、大阪、神戸の3会場に絞り込んだ。9月11日の夜間集会で順位付けすることを決定した。

1.3.3 組織委員長について

川幡評議員から「組織委員長を総会までに決定すること」を再確認したい、との意見が出され、夜間集会后に第4回評議員会を開いて決定することを確認した。

1.4. GJ出版に関するテラとの覚書および契約

副会長から、DOI付与に関するテラおよびJSTとの交渉経過、これに伴う契約書・覚書案の修正予定について説明があった。覚書案の字句の微修正案が清水監事から出された。

1.5. 日本地球惑星科学連合(JpGU)のジャーナル発行について

川幡評議員(JpGU副会長を兼務)から、JpGUではreview+幕張大会の優秀発表を主体とした新規ジャーナルと、姉妹ジャーナルのようなLETTER(EPS後継)について準備をしていること、JpGUのホームページに掲載されている、ジャーナルに関するQ and Aが参考になること、が説明された。新ジャーナルのEditorial boardあるいは関連の運営委員の候補として、本会からは、小嶋稔名誉会員と川幡評議員を推薦することが承認された。

1.6. 2011年決算、2012年中間報告、2013年予算

南会計幹事からそれぞれについて説明され、審議の結果承認された。2011年会計は、管理費は抑えら

れたものの会費収入の微減、出版費の予算超過などにより、実質的には約95万円の赤字となった。

2012年度は会費が一部未収となっている。2013年度予算はGJの電子化に伴い刊行物売上金がなくなり、出版助成の科研費が不採択となる可能性もあることから収入減が予想される。支出はGJ電子化に伴う経費(ID・パスワード発行経費。会員一人当たり年間約500円)やホームページの改修費を新たに計上したことなどから実質的には約220万円の赤字が予想される。基本財産引当金は、法人化に備えて準備したものであるが、今後はなくす方向で検討する。GJ出版費に関連して、今後テラパブ以外の出版社と契約する場合に備え、過去の電子アーカイブの譲渡条件を確認しておくべきとの提案があった。

1.7. 総会資料について

議事次第、2011年度事業報告、2012年度中間報告、2013年度事業計画が承認された。今回は、中国鉱物岩石地球化学会の劉会長の特別講演が実現しなかった。外国人研究者を招聘するための制度として、既存の功労賞の適用、国際賞または国際名誉会員の創設、60周年記念行事などが提案された。経費にも留意しつつ、幹事会で検討することとした。

1.8. 学会会議の大型研究計画について

本評議員から説明があり、実施期間5-10年、予算総額10億円超の計画を本会から提案するかどうかについて幹事会で検討を始めることとした。公募開始は2013年2月の予定。

1.9. 学術著作権協会との権利委託契約について

カナダ複製権機構が、本会に支払うべき著作物(GJ)複写使用料を誤って学術著作権協会に送金した(6カナダ・ドル=約480円)。学術著作権協会が本会に再送金することに関して承諾した。また、今後似たような事例が起きる可能性があること、この協会との権利委託契約には経費負担が発生しないことから、学術著作権協会契約を交わすこととした。

1.10. 地学オリンピック

地学オリンピック日本委員会の活動支援要請に対し、本会が協賛団体として協賛することが承認された(協賛金5万円)。また、地学オリンピック予選および本選の問題作成への協力依頼に対して、本会から作成委員を派遣することを承認した。

1.11. JpGU大会プログラム委員1名の交代とJpGU教育問題検討委員の承認について

プログラム委員の鈴木勝彦会員がセクション代表としてプログラム編成会議に参加することになったため本会のプログラム委員を辞退し、横山哲也会員と交代することが承認された。教育問題検討委員はすでに本会から派遣され活動を継続している瀧上豊会員と津野宏会員、および別の理由により委員として活動している高橋嘉夫会員の3名に、本会の代表として引き続き活動していただくことを承認した。

1.12. 学会ウェブ体裁の改修について

原田広報幹事から、現在の学会ホームページの改修の必要性が説明された。情報を見やすくするための改修費用を来年度予算に計上することが承認された。あわせて、英文ホームページの充実を図ることも確認した。

2. 報告事項等

2.1. 広報(原田幹事)

2.1.1. 学会ホームページ

2012年8月現在で26件の公募情報を掲載、広告は3件から2件に減少(7月末オーレックが解約)。

2.1.2. 講師派遣事業

2012年8月現在の派遣講師登録は19名。前報告以降の派遣実績は4件(大分県立大分豊府中学校(山本順司会員)、青森市立浅虫中学校(古川善博会員)、古河市立第一小学校(横山祐典会員)、大分県立大分舞鶴高等学校(川本竜彦会員))。

2.1.3. GC2012ブース

GJのバックナンバーおよびCD、学会パンフレット、ノベルティ、GJ特集号「Fukushima review」のコンテンツを配布。詳細は地球化学ニュースNo.210にて報告。

2.1.4. 年会ブース、プレス対応

「地球と宇宙の化学事典」の宣伝ちらしを年会受付にて配布。各セッションのコンビーナーに推薦していただいた計13件のハイライト講演の要約をマスコミ各社に投げ込んだ。

2.2. 庶務(豊田幹事)

2.2.1. 2012年第3回幹事会(9月1日(土)12:15-17:10、JAMSTEC東京事務所)

出席者:吉田会長、山本副会長、塚本・GJ編集委員長、高橋・和文誌編集委員長、下田、原田、平田、南、豊田の各幹事、欠席者:川幡幹事
第3回評議員会の議案整理を行った。

2.2.2. 年会準備関係

年会案内を、日本化学会、日本分析化学会(共催)の学会誌「化学と工業」、「ぶんせき」へ掲載依頼(8月号)、および質量分析学会(協賛)の学会メールニュースへ配信依頼した。学会賞、奨励賞(3件)のメダル、賞状を清田工芸に発注した。澁谷岳造会員(奨励賞)は授賞式、受賞記念講演に欠席。ビデオ出演も検討されたが、来年の年会で講演していただくことになった。名誉会員へ招待状を発送、9/7現在3名から欠席の返信。

2.2.3. 第2回鳥居基金

海外派遣2件、国内研究集会0件の応募があり、大森裕子 会員(AGU Fall Meetingでの研究発表)が採択された。

2.2.4. 協賛、共催予定

3rd Asia-Pacific Conference on Luminescence and ESR dating (2012年11月18-22日、岡山理科大学、協賛)、可視化情報全国講演会(2012年10月4-5日、姫路商工会議所、協賛)、日本地熱学会平成24年学術講演会(2012年10月24-26日、秋田県湯沢市湯沢文化会館、協賛)

2.2.5. 各種表彰の推薦

第3回日本学術振興会育志賞、H25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰(科学技術賞および若手科学者賞)、およびH24年度第4回とうきゅう環境財団社会貢献学術賞の学会推薦候補者の受付を行ったが応募はなかった。

2.2.6. JST

J-STAGE掲載のGJの情報および著者抄録をJ-GLOBAL、JDreamIIで閲覧するための掲載許諾依頼

があり、承諾した(8/22)。

2.2.7. GJ科研費関連

JpGU第2回科研費成果公開促進費対応臨時委員会(5月21日(月) 16:00-17:00 幕張メッセ、折橋評議員が出席)、同第3回科研費成果公開促進費対応臨時委員会(8月9日(木) 14:00-16:00 東大理学部、吉田会長が出席)。H25年度科研費研究成果公開促進費の公募要領が公開された(9/1、締切11/16)。「国際情報発信強化B」への応募について出版WGおよび塚本編集長に検討を依頼した。

2.2.8. その他

日本地球化学会と中国鉱物岩石地球化学会との間で覚書取り交わされた(7/16北京)。国際文献が保管していた、ハードカバー製本のGJおよび和文誌、古いニュースやDVDについて、譲渡希望のあった5名の会員に発送後、処分した(7月)。GJの表紙にJpGUのロゴを掲載してパートナーシップジャーナルとする覚書案がJpGUとの間でまとめ、取り交わし手続き中。

2.3. 会員(下田幹事)

5月から8月までの会勢は以下の通り。

日本地球化学会会員数(2012年8月31日)

会員種別	人数	契約口数	GJ冊子希望	GJ冊子不要
一般正会員	741		306	435
学生正会員	148		81	67
うち、学生パック	(56)		(30)	(26)
シニア正会員	59		31	28
賛助会員	10	10	9	1
名誉会員	11		6	5
合計	969		433	536
(寄贈)			17	
(GJ発送総数)			450	

会員異動(2012/5/1~2012/8/31)

【入会】

5月

会員番号	会員名	会員種別
9282800	安田 友紀	学生パック
9282803	柄澤 尚人	学生パック
9282805	三島 郁	学生パック
9282807	新井田 佳吾	学生正会員

6月

9282804	遠藤 美朗	学生パック
---------	-------	-------

9282813	関 有沙	学生パック
9282814	杉原 真司	一般正会員
9282815	川名 華織	学生正会員

7月

9282809	安間 了	一般正会員
9282810	近藤 美由紀	一般正会員
9282811	岡本 和明	一般正会員
9282817	ベル 智子	学生正会員
9282818	重光 雅仁	一般正会員
9282820	岡部 宣章	学生正会員
9282821	中村 淳路	学生パック
9282822	為則 雄祐	一般正会員
9282824	山形 武広	学生パック
9282826	小林 真大	学生パック
9282831	齋藤 有	一般正会員
9282837	坂田 周平	学生パック

8月

9282819	森本 宏昭	学 生
9282823	添盛 晃久	学生パック
9282825	福田 航平	学生パック
9282828	川久保 友太	学生パック
9282829	有賀 大輔	学生パック
9282830	内藤 慶一	学 生
9282833	野村 龍一	学生パック
9282835	ZOU, YUN	学生パック
9282836	TUMENDELGER, AZZAYA	学生パック
9282838	真中 卓也	学生パック

【退会】

5月

会員番号	会員名	会員種別	会費納入済年度	備考
9282490	楠田 千穂	学生正会員	2011	1月に退会届

6月 なし

7月 なし

8月 なし

【会員種別変更】

5月

会員番号	会員名	変更前	変更後
9282610	朝比奈 健太	学生正会員	一般正会員

6月

8281180	楠田 隆	一般正会員	シニア正会員
9282400	宮川 和也	学生正会員	一般正会員
9282461	遠山 知亜紀	学生正会員	一般正会員

7月 なし

8月 なし

2.4. GJ(塚本編集委員長)

2.4.1. 発行・編集状況(8月2日現在)

2012年 vol. 46、No. 3 は7月に発行された。No. 4は福島特集号の予定。8月2日現在の投稿数は97報、うち受理24、却下31、審査中42となっている。特集号は、2011年ゴールドシュミット会議「Fukushima Review」および第58回年会「災害による環境汚染および復興の地球化学」に基づく特集号(首都大・海老原、東工大・吉田、広大・高橋の各会員)、第57回年会「南太平洋-パタゴニア地域の地球化学総合研究」に基づく特集号(東大・折橋会員)、第58回年会「水圏環境地球化学-佐竹洋先生記念シンポジウム」に基づく特集号(富山大・張会員)。

「Fukushima Review」特集号掲載論文をHP上でfree access paperとして先行発表した。その関連発表論文も同HPに掲載した。今後発表される関連論文もこのHPに追加していく。

2.4.2. その他

P. ARIYA 博士のAE 辞退を受理、Jennifer G. Murphy博士、Richard W Murray博士をAEに加えた。投稿数に対する編集委員不足からAE の補充を考えている。

2.5. 和文誌「地球化学」(高橋編集委員長)

2.5.1. GJの表紙変更に伴う「地球化学」表紙の刷新

案数種が示され、その中から編集委員長が選んだ案について承認した。Vol.47, No.1より表紙を刷新する。

2.5.2. 発刊予定

【2012年Vol.46, No.3】(年間に間に合うように発送予定、GJ4号と合冊) 2011年度日本地球化学会奨励

賞受賞記念論文:吉川知里、「窒素同位体比および物質循環モデルを用いた海洋窒素循環に関する研究」、企画総説「地球化学の最前線」:角野浩史、「揮発性元素の沈み込みはマントルのどこまで及んでいるのか?」、総説:淵田茂司、「化学進化におけるペプチド生成」、報文:猪狩俊一郎、「メタンを主成分とするガス中の微量非メタン炭化水素の測定法の改良」、博士論文抄録:飯塚理子

【2012年Vol.46, No.4】特集号「地殻流体」(年内発送予定、GJ6号と合冊) Preface: 小木曾哲、総説: 加藤愛太郎、「地震発生と地殻流体」、総説: 石川剛志、廣野哲朗、「断層岩の微量元素組成・同位体組成からみた地震時の流体岩石相互作用」、総説: 山本順司、石橋秀巳、「マントルウェッジ炭素の起源を考える」、総説: 平賀岳彦、渡部泰史、「粒間流体の実態」、報文: 岡本和明ほか、「沈み込み帯および島弧地殻で発生する脱水流体と地震性破壊」、報文: 土岐知弘ほか、「琉球諸島周辺の地殻内部流体中のメタンの起源」

2.5.3. その他

来年、60周年記念特集号の編集を計画中。

2.6.企画(平田幹事)

2.6.1. ゴールドシュミット国際会議について

ゴールドシュミット国際会議が6月24-29日にカナダのモントリオールで開催された。地球化学会も共催(スポンサー)として参加するとともに、学会活動紹介のために展示ブースを開設。次回は、2013年8月25-30日にイタリアのフローレンスにて開催される。現在、Webにてセッション募集中(〆切2012年10月)。講演要旨の投稿は2013年2月より開始(〆切4月予定)。来年度も協賛金(3,000ドル)を提供し、また地球化学会のブースを開設する予定。

2.6.2. 平成24年度日本地球化学会年会について

9月11-13日に、九州大学において平成24年度日本地球化学会年会が開催される。実行委員長は九州大学・吉村会員。今年もセッション制をとっており、評議員が中心となる学会基盤セッション(17セッション)と一般からの公募による特別セッション(6セッション)で講演を募集。8月24日現在での参加申込数(予約登録者:予約登録は8月24日に〆切)は318件。講演申込数は口頭発表251件(受賞講演3件を含む)、ポスター発表104件。今年も学会主催の学生発表賞を授与する。エントリー数は82件。審査は評議員が行う(エントリー発表1件あたり評議員3人を割りあてるとともに、エントリー講演を聴講した場合は審査をするよう要請した)。年会最終日、講演が終了したあとにクロージングセレモニーを開催し、学生発表賞を授与する。授与数は未定であるが、3から6件を想定し、景品の準備を進めている。

今年は新たな試みとしてランチオンセミナーを開催。企業の支援で海外の研究者に講演していただき、最新の情報を提供してもらう機会とする。企業の宣伝にならないように配慮するよう要請。

今年も年会会期前日(9月10日)にショートコースを開催。4つの学術講演と一つのテクニカル講演を開催する。8月24日現在での参加登録数は25名。アジレントテクノロジーの好意により参加者全員にトートバックを配布する。

2.6.3. 平成25年度日本地球化学会年会について

来年度の日本地球化学会年会は筑波で開催する予定。野尻会員および丸岡会員が中心となり、鉦

物科学会と同時開催する方向で調整中。オブザーバーの野尻会員から、9月第2週に筑波大学を会場として開催予定である旨、説明があった。

2.7 .ニュース(川幡幹事)

E-mailでの配信は順調に推移している。投稿には、文字化などのトラブルがないよう、pdfなどでなくテキストファイルをお願いしている。次回「地球化学」に掲載予定のニュースは、第2回評議員会議事録、公益社団法人日本地球惑星科学連合の幕張大会、モンリオールのGoldschmidt conferenceのレポート、第3回評議員会議事録の予定。

2.8. その他

GC 開催は大きな財政リスクを伴うので、組織づくり、GS との交渉、2016 年以降も GC を日本で開催するのかどうか、慎重な検討が必要との意見が出された。

(庶務幹事・豊田 栄)